

## 【企画の趣旨】

温暖化による気候変動に象徴される地球環境の劣化は、新型コロナウイルス感染のパンデミック下においてもとどまることがありません。世界的に金融資本主義のもとに地球を消費し尽す流れに歯止めがかかりません。大量にお金や物を動かすこれまでの流れを、小さな地域で資源やお金が循環する方向への転換が求められています。世界のなかで、離島ともいえる日本が身の丈に合った生き方を顧みず、未だに背伸びの無理を重ねる先に、続く世代が幸せに生きる確かな未来はありません。そうした中で多くの島々からなる琉球列島は、その地理的位置や大陸とのつながりの歴史、第二次世界大戦前後の苦難の歴史のなかで、賢く生きる知恵や技に満ちた文化が根付いている場所だと思われれます。

全国日本学士会のなかで沖縄には支部が存在し、地道な活動が続けられています。沖縄支部の協力を得て、シンポジウムを当地で開催する運びとなりました。

このままでは地球生命系が破綻することがますます明白になるにもかかわらず、今なお目先の経済成長の呪縛から抜け出せず、行く末を見失いつつあるこの国を、多様な自然・歴史・文化を土台に“自足”の道を歩む琉球列島の島々の取り組みから学び、未来を見据えるシンポジウムを企画しました。

令和4年3月13日

2022年沖縄シンポジウム

「琉球の島々から日本の行く末を見据える」実行委員会

委員長 田中 克：一般社団法人全国日本学士会常務理事  
舞根森里海研究所所長、京都大学名誉教授